

立命館大学経済学会
セミナーシリーズ

20世紀社会主義とは何だったのか

『体制転換の政治経済社会学』をめぐるディスカッション

盛田 常夫

2022年9月14日 キャンパスプラザ京都

第7章

ポスト社会主義
とポピュリズム

第6章

体制転換の
政治学

第5章

体制転換の
社会学

第4章

ポスト社会主義の
経済学

第8章

体制転換の歴史学

第3章

体制転換の経済学

第9章

20世紀社会主義
と
体制転換
を
総括する

第1章
方法論

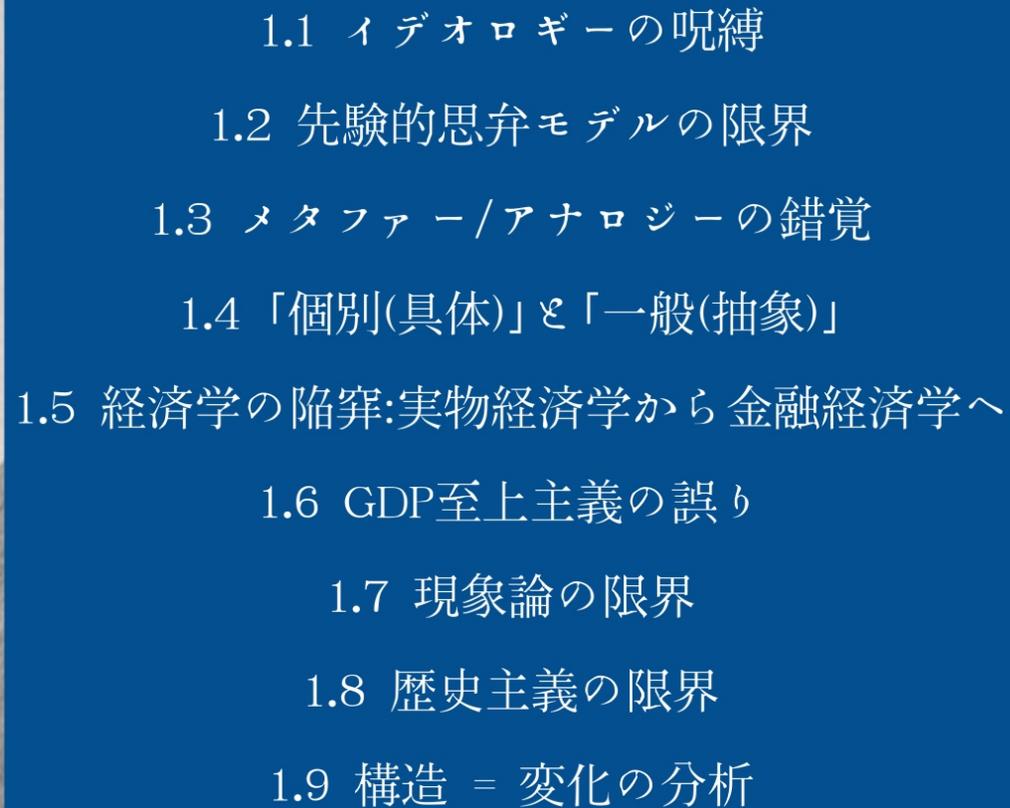
第2章
社会哲学



第1章

体制転換分析 の方法論

構成

- 
- 1.1 イデオロギーの呪縛
 - 1.2 先験的思弁モデルの限界
 - 1.3 メタファー/アナロジーの錯覚
 - 1.4 「個別(具体)」と「一般(抽象)」
 - 1.5 経済学の陥穽:実物経済学から金融経済学へ
 - 1.6 GDP至上主義の誤り
 - 1.7 現象論の限界
 - 1.8 歴史主義の限界
 - 1.9 構造 = 変化の分析

構成

第2章

体制転換の社会哲学

交換と配分

アポトーシス
と
ネクローシス

- 2.1 国民経済計画の不可能性
- 2.2 体制転換(移行) : 何から何へ
- 2.3 交換(give and take) と配分(give, but obey)
- 2.4 社会の自己崩壊
- 2.5 体制負債
- 2.6 自立的に機能しない社会構成体
- 2.7 アポトーシス型社会とネクローシス型社会
- 2.8 社会転換のアポリア
- 2.9 社会的位相転換: 「移行」と「転換」
- 2.10 社会転換のイデオロギー
- 2.11 ポスト社会主義のイデオロギー

基底的社会經濟行為

社会・経済的モーメント

交 換

配 分

1. コミュニケーション	情報的・双務的	物理的・片務的
2. 制度化	自己組織化された市場制度	官僚制度
3. 人間関係	非人格化－文明化	人格依存－非文明化
4. 組織化	開放性と透明性	閉鎖性と秘密性
5. 社会的行動	自立と個人責任	権威への依存
6. 複雑性	継続的に増大	単純化への退化
7. 自己発展	自生的・継続的	劣化的・自己破滅的

「社会が自己崩壊（社会が自死）する」というのは、いかなることだろうか。この問題を考える際に、細胞生物学の最近の研究が一つのヒントになる。それはアポトーシス（apoptosis）とネクローシス（necrosis）という対概念である。これは細胞の死を二つのタイプに分類したものだ。

新しい細胞を生み出すことで生体機能が維持されるが、新しい細胞の生成は古い細胞の死と並行して進行する。新しい環境に適応できなくなった細胞は自らその存在を断つことによって、新しい細胞へその役割を託して死滅する。このようなアクティブな細胞死によって、環境への生体の持続的な適応が保証され、生体の活力が維持される。いわば古い細胞が捨て石となって、新しい細胞の生成を促す。

このようなポジティブな細胞死はアポトーシスと呼ばれている。これにたいして、ただ壊死して消滅する細胞の死は、ネクローシスと呼ばれている。捨て石として新しい細胞に未来を託することなく、ただ腐って死滅する細胞死である。

構成

第3章

体制転換の経済学

不況
恐慌
それとも

急進政策
VS.
漸進政策

3.1 体制崩壊恐慌

3.2 体制転換のアポリア

3.3 クーポン民営化と直接投資

3.4 フェイクモデルによる不毛な論争

3.5 体制転換に付随する腐敗現象

筆者は1994年に上梓した『体制転換の経済学』において、コルナイの「移行不況（transformational recession）」規定に対置するものとして、体制転換直後の経済危機を「体制崩壊恐慌あるいは過渡期恐慌」と規定した。たんなる「不況」として特徴づけられるものではなく、「体制が崩壊したことに伴う経済恐慌」と捉えるべきことを明らかにした。それはまた、「体制転換恐慌（transformational crisis, crisis of system transformation）」とも呼べるものである。

コルナイは正統派経済学を意識するあまり、マルクス経済学的なニュアンスが強い「恐慌」概念を避けた。正統派経済学への阿（おもね）りや忖度が、「恐慌」用語の使用を躊躇（ためら）わせた。ところが、「移行経済学」を専攻する研究者のほとんどが、このコルナイの規定を無批判に踏襲しているのはただけでない。「コルナイが規定しているから正しい」と考えるのは、一種の権威主義である。

フェイクモデル化の原因

1. マクロ経済政策と民営化戦略の混同
2. クーポン=ヴァウチャー民営化の実態を無視

マクロ経済政策と民営化戦略の混同

体制転換直後の国民経済崩壊からの脱出には、どこでもハイパーインフレを抑え込む抜本的な政策が急務であった。そこには急進政策と漸進政策の対立関係など存在しなかった。

急進vs.漸進が注目されたのは、クーポン民営化戦略が脚光を浴びだして以後のことである。その時に直接投資型のハンガリーとクーポン民営化型のチェコが対比されたのである。

チェコは外資導入を拒否し国内資本での国民経済復興を図ろうとして、クーポン民営化を選択した。この歴史的過程を無視した議論はフェイクモデル化し易い。

構成

借り物経済

第4章

ポスト社会主義の経済学

腐敗現象の
3段階

国庫経済化

- 
- 4.1 高い税負担が市場経済の発展を抑制
 - 4.2 借り物経済の構造
 - 4.3 国民経済の「国庫経済」化
 - 4.4 ポスト社会主義社会の腐敗現象
 - 4.5 国庫経済下の資本蓄積

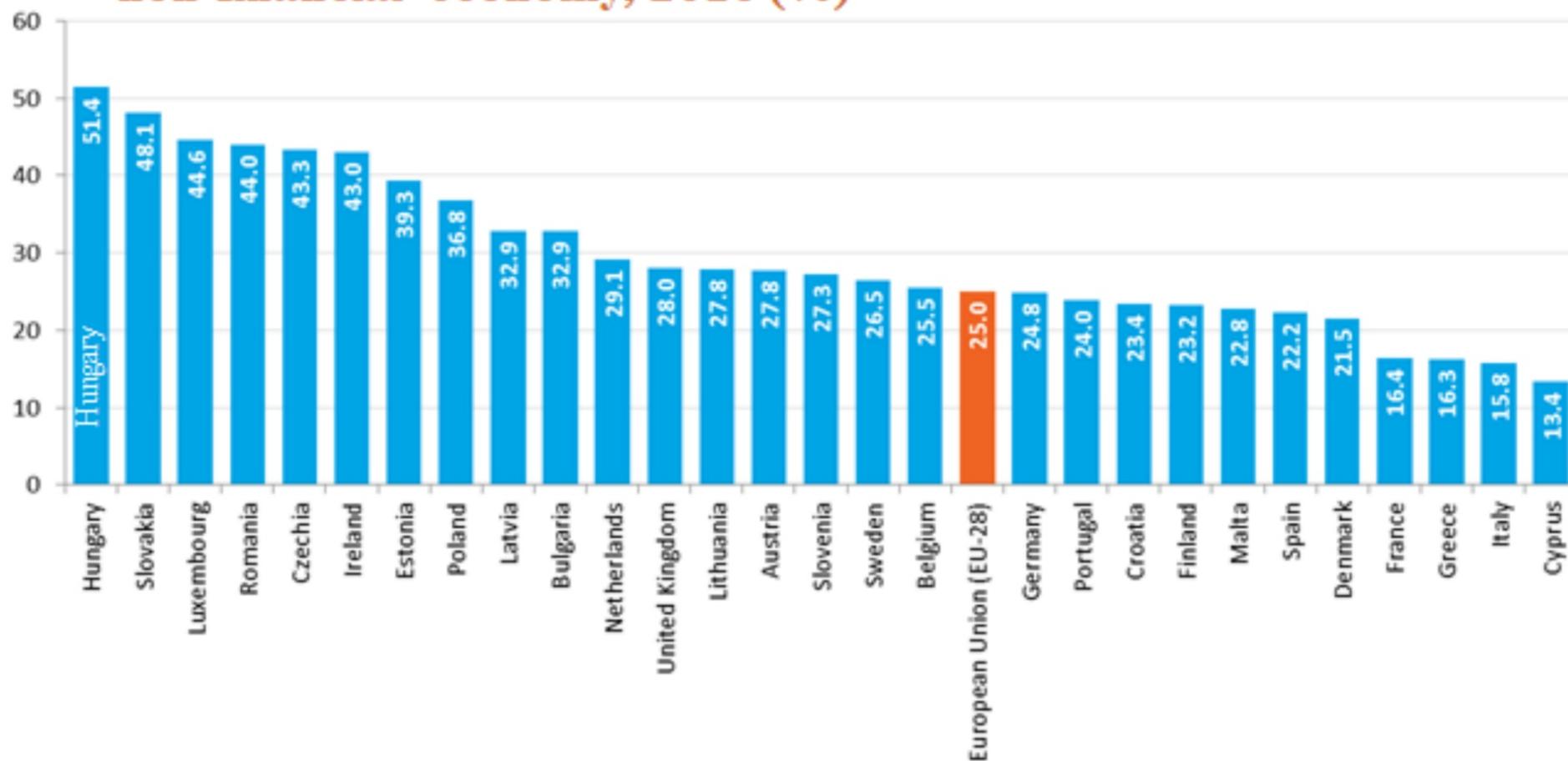
ゲストワーカー化

国民経済の借物経済化

借景経済

外資占有率

Share of valued added by foreign-controlled enterprises in the non-financial economy, 2016 (%)



ふつうゲストワーカーとは国外へ出稼ぎに出る労働者を指すが、中・東欧諸国で観察されるのは、「自国にいながらゲストワーカーのように振舞っている」現象である。

この「ゲストワーカー」には、通常のゲストワーカーに特徴的なハングリー精神が見られない。それとは逆に、文字通りの「お客さん（ゲスト）」気分の労働倫理が支配している。好きな時に働き、好きな時に休むという「お客さん」的なスタイルである。

これが中・東欧の「ゲストワーカー現象」である。多国籍企業と労働者の「中・東欧型の共生現象」と名づけてもよい。

Borrowed Landscape : Entsuji temple, Kyoto, Japan



ゲストワーカー化

国民経済の借物経済化

1. 製造業の過半が外資系企業
2. 労働者のゲストワーカー化
3. 上級管理者の貴族化

借景経済

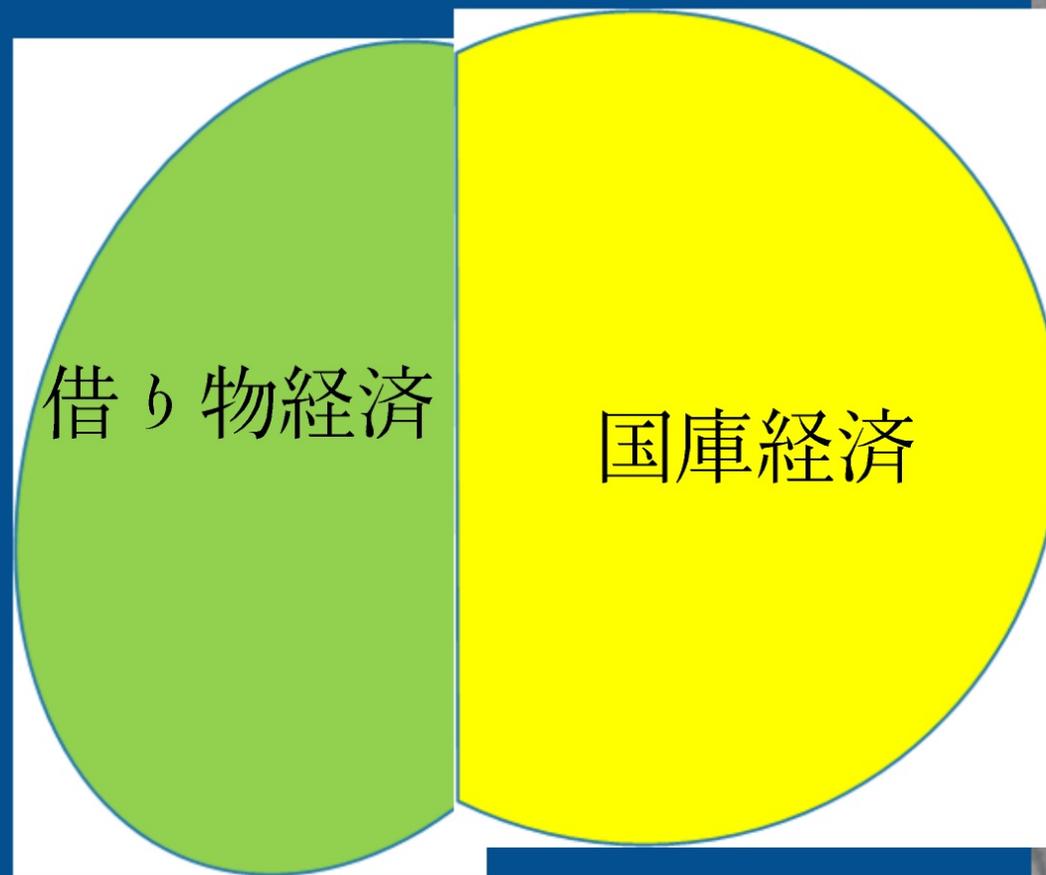
外資占有率

国庫経済化する国民経済

経済主体の成功や失敗が市場競争に依ってではなく、公共発注や補助金によって決まる国民経済は市場経済とは呼べない。国庫経済と呼ぶべきものである。国民経済の国庫経済化こそ、体制転換後に中欧の小国に現れた典型的な現象である。

国民経済の 二重構造

二つの領域には相互関係が欠如



構成

第5章 体制転換の社会学

新たな
不足現象

体制転換で何が変わり
何が変わらないのか

専門職技能
職の不足

不足の
社会心理

5.1 消費生活の変化と
新たな不足現象

5.2 移民や出稼による
専門職・技能者の不足

5.3 行列（不足）の
社会心理

食料品・ 建設資材の不足

体制転換によって、以前には考えられなかった消費生活を享受できるようになった。お金さえあれば、日常的な生活商品で苦労することはない。ところが、食料品を中心とした日常的な消費生活に比べ、高額商品、各種の技能的・技術的サービス、医療サービスは日常的な不足に直面している。体制転換から30年も経つのに、これらの商品やサービス供給の不足が一般的に観察できる。しかも、この不足現象もまた、ハンガリーに固有のものではなく、体制転換諸国に共通する事象である。

移民による
労働力の不足

1. 質の良い商品の不足(在庫を持たない)
2. 専門技能者・技術者の不足(国外で稼ぎ)
3. 医療分野の不足(旧体制の改革の遅れと人材流出)
4. 公共施設の人員不足(火葬場・役所)

移民・移住

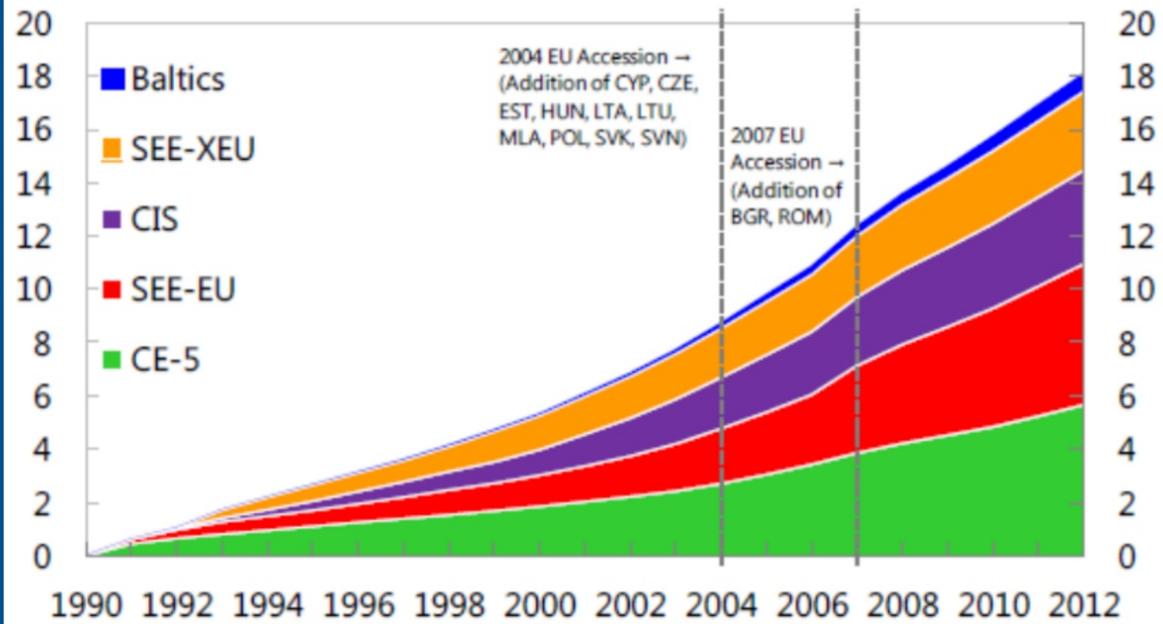
IMFの研究によれば、1990年から2012年に至る20数年間に、中・東欧諸国とCIS諸国からEU諸国に移住した人の数は2000万人近い数になる。実にハンガリーとチェコの国民を合わせた数である。

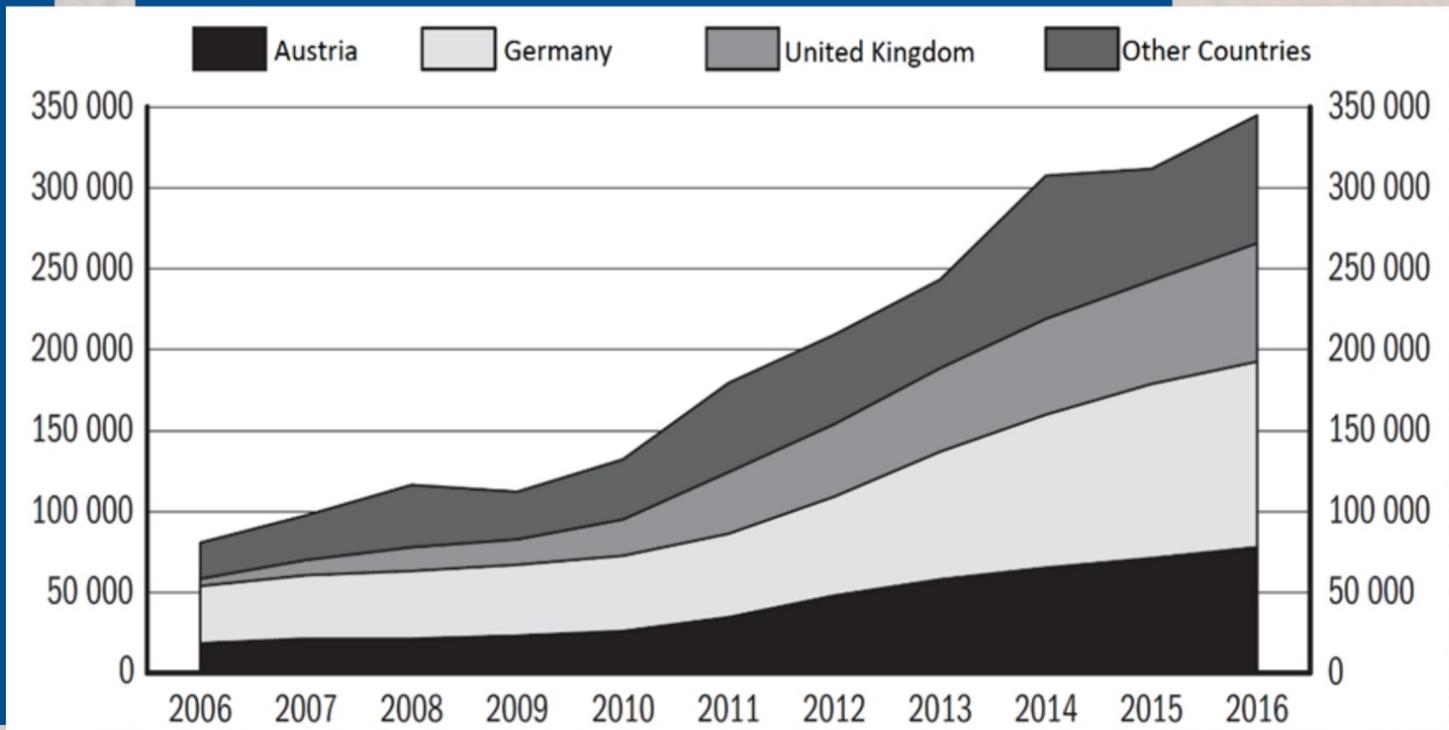
明らかに、これらの移住・移民はより高い所得を目指した流れであり、中・東欧諸国の市場経済への転換過程が必ずしも順調に進んでいないことの証左でもある。

ハンガリー
からの労働
力の流出

IMF Staff
Discussion Note,
Emigration and its
Economic Impact
on Eastern Europe,
p.9, 2016.

Cumulative Emigration Flows by Region (Millions of people)



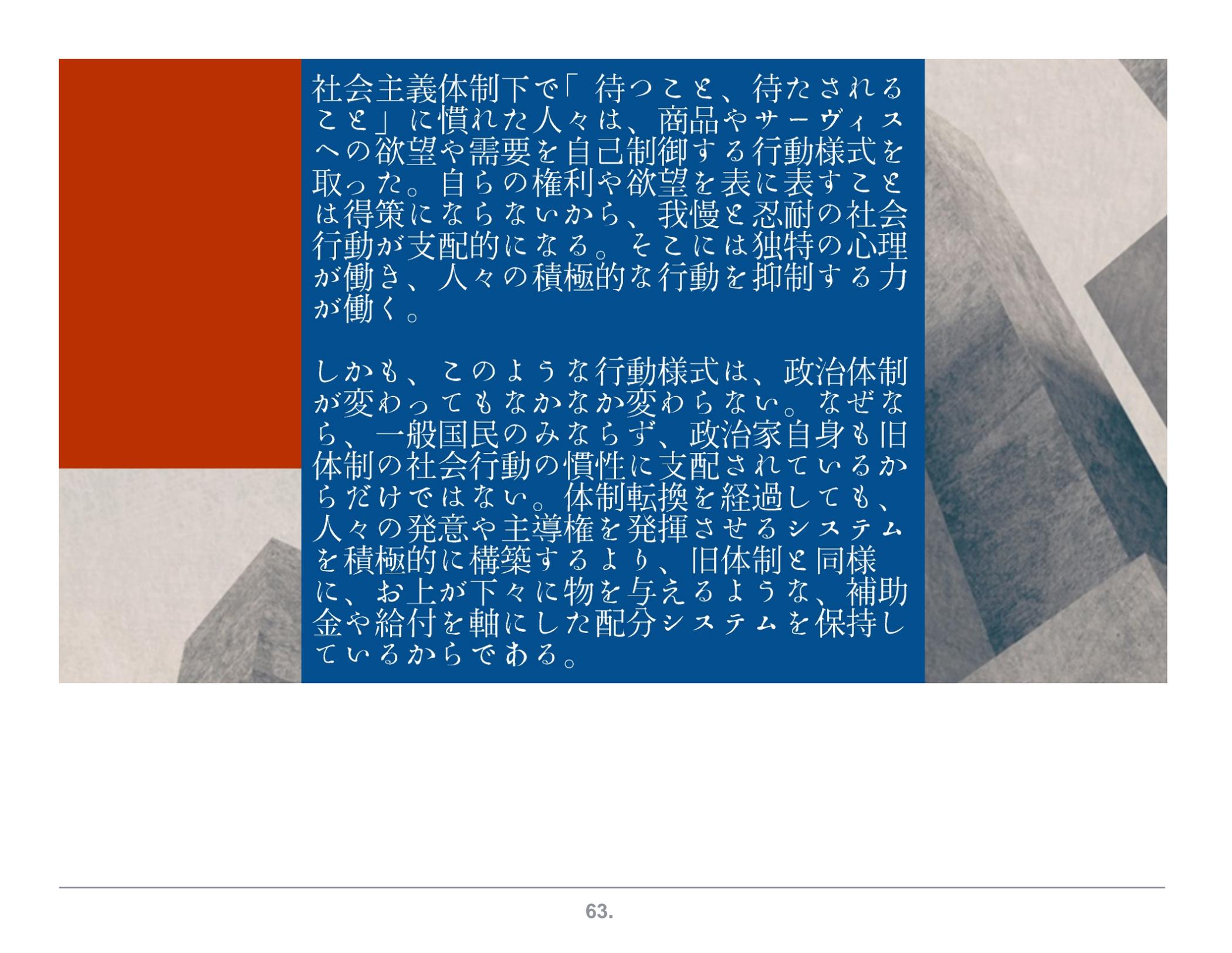


各種手術の 待機時間

各種手術の待機時間(日数)

手術名	手術待機者 (2018年5月2日現在)		2017年に手術を受けた患者	
	人 数	予定平均待機日数	人 数	平均待機日数
白内障	11,237	92	76,225	45
扁桃腺	1,048	43	18,127	21
副鼻孔炎	108	35	2,225	17
脊柱矯正	725	302	2,972	38
脊柱ヘルニア	60	27	2,298	8
前立腺肥大	130	29	2,426	15
婦人科良性腫瘍	462	25	12,639	9
膝プロテーゼ	5,442	322	8,134	137
臀部プロテーゼ	4,652	262	11,757	104
冠状動静脈	2,47	50	39,288	17
心臓検査、アブレーション	731	190	5,023	31
重度の脊柱手術	54	349	111	84
合 計	27,443		186,163	

(出所) Nemzeti Egészségbiztosítási Alapkezelő (国民健康保険事務所) HPより作成。



社会主義体制下で「待つこと、待たされること」に慣れた人々は、商品やサービスへの欲望や需要を自己制御する行動様式を取った。自らの権利や欲望を表に表すことは得策にならないから、我慢と忍耐の社会行動が支配的になる。そこには独特の心理が働き、人々の積極的な行動を抑制する力が働く。

しかも、このような行動様式は、政治体制が変わってもなかなか変わらない。なぜなら、一般国民のみならず、政治家自身も旧体制の社会行動の慣性に支配されているからだけではない。体制転換を経過しても、人々の発意や主導権を発揮させるシステムを積極的に構築するより、旧体制と同様に、お上が下々に物を与えよう、補助金や給付を軸にした配分システムを保持しているからである。

第6章

転換過程の
旧体制人脈

体制転換の政治学

一般に社会変動において、一時的に旧社会の指導者の役割が否定されても、一定の時間を経たのちには旧社会の指導者が新しい社会関係の中で、再び指導的地位に就くことがある。同じ人間が、旧社会でも新社会でも指導的な地位に就くことは、社会変動で一般的に観察される現象である。とくに社会の組織化に能力を発揮する人物が、そのような役割を担う。

すべての社会の変動において断絶性と継続性の問題が生じるのは、このような時間的に重複する社会関係がかなりの長期にわたって維持されるからである。

ハンガリー
の自由選挙

表6.1 歴代政府の中に占める旧体制エリートのウエイト

	アンタル内閣 N=86 (1990-1993)		ホルン内閣 N=66 (1994-1998)		第1次オルバン内閣 N=97 (1998-2002)		メッジェシ内閣 N=80 (2002-2004)		第1次ジュルチャーニ内閣 N=73 (2004-2006)		第3次ジュルチャーニ内閣 N=41 (2006-2009)	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
A. 旧体制トップ指導者	6	6,9	25	37,9	5	5,1	23	28,8	18	24,7	13	31,7
MSZMP			3				8		8		4	
KISZ			1				4		4		4	
愛国戦線					2							
副首相			1									
大臣			2									
副大臣	4		7		2		1		1		1	
次官	2		4				2		2			
評議会議長			5		1		4		1		4	
国会議員			1									
労働組合			1				2		2			
B. 旧体制公的機関管理者	29	33,7	23	34,8	13	13,4	22	27,5	15	20,5	3	7,3
上級官吏	13		16		8		16		9		2	
企業トップ	10		5		3		4		5		1	
学術・文化指導者	6		2		1		2		1			
医療機関トップ					1							
合計 (A + B)	35	40,6	48	72,7	18	18,6	45	56,3	33	45,2	16	39,0

注：この表でNと表示された数は、それぞれの内閣のエリートポスト数(首相、大臣、政務次官、事務次官)である。たとえば、ホルン内閣のN=66とは、ホルン政府のエリートポスト総数が66ポストという意味である。そのポストを占めた人物の内、旧体制でエリート指導者だった者(A)、公的機関管理者だったもの(B)の二種類に区分されている。なお、MSZMPはハンガリー社会主義労働者党(ハンガリー共産党)、KISZは共産主義青年同盟。

表6.2 ハンガリーにおける自由選挙結果（1990－2018年）

	MDF	Fidesz	KDNP ²	FKgP	MIÉP ³	Jobbik	MSZP	DK	SZDSZ	LMP ⁴
1990 第1回選挙区	24.73	8.95	6.6	11.73			10.89		21.39	
1990 得票率(%)					-	-		-		-
1990 獲得議席	165	22	21	44			33		94	
1994 第1回選挙区	11.73	7.01	7.03	8.82	1.58		32.99		19.73	
1994 得票率(%)						-		-		-
1994 獲得議席	38	20	22	26	0		209		70	
1998 第1回選挙区	2.8	29.48	2.31	13.15	5.47		32.92		7.57	
1998 得票率(%)						-		-		-
1998 獲得議席	171	148	0	48	14		134		24	
2002 第1回選挙区		41.07		0.75	4.37		42.05		5.57	
2002 得票率(%)			-			-		-		-
2002 獲得議席		188		0	0		178		20	
2006 第1回選挙区	5.04		42.03	0.02		2.2	43.21		6.5	
2006 得票率(%)								-		-
2006 獲得議席	11		164	0		0	190		20	
2010 第1回選挙区	2.67		52.73		0.03	16.67	19.3			7.48
2010 得票率(%)				-				-	-	
2010 獲得議席	0		263		0	47	59			16
2010 全国比例得票			44.87			20.22	25.57			5.36
2014 ⁵ 率(%)	-			-	-			-	-	
2014 ⁵ 獲得議席			133			23	38 ⁶			5
2014 ⁵ 全国比例得票			49.27			19.06	11.91	5.38		7.06
2018 ⁷ 率(%)	-			-	-				-	
2018 ⁷ 獲得議席			133			26	20 ⁸	9		8

2015年の
難民・移民
大移動

ポスト社会主義 とポピュリズム

第7章

移民拒否政策はポピュリズムか

ポスト社会主義社会で、ポピュリズムが隆興するのはなぜか。

ポピュリズム
根源

表7.1 不法入国者数（陸上および海上、単位：人、％）

	2012	2013	2014	2015	構成比(%)	2015/2014(%)
シリア	7 903	25 546	78 764	594 059	33	654
国籍不明	2 113	3 571	386	556 432	31	144 053
アフガニス タン	13 169	9 494	22 132	267 485	15	1 109
イラク	1 219	537	2 110	101 285	5.6	4 700
パキスタン	4 877	5 047	4 059	43 314	2.4	967
エリトリア	2 604	11 298	34 586	40 348	2.2	17
イラン	611	404	468	24 673	1.4	5 172
コソヴォ	990	6 357	22 069	23 793	1.3	7.8
ナイジェリ ア	826	3 386	8 715	23 609	1.3	171
ソマリア	5 038	5 624	7 676	17 694	1	131
その他	33 087	36 101	101 997	129 645	7.1	27
合 計	72 437	107 365	282 962	1 822 337	100	544

出所：Frontex, *Risk Analysis for 2016*, p.63より筆者作成。

二つの政策
の区別

国際メディアがハンガリー政府の「難民」対応を非難し、欧州の西側諸国もハンガリー政府の対応を非人道的と非難する背景には、ハンガリーの民族主義的右派政権と欧米諸国との関係が悪く、他方で腐敗にまみれ国民の支持を失ったハンガリーの「左派」勢力が、ハンガリー国外の欧州左翼の力を借りて外からハンガリー政府批判を行っているという事情がある。だから、ハンガリー政府がとる政策措置は何ごとにも反民主主義、オルバン首相は偏狭な右翼民族主義、排外主義者というレッテルが貼られる。それに習って、ハンガリーに来たこともない欧米のジャーナリストが安易にこのレッテルをハンガリー政府批判の枕詞として使っている。

確かにオルバン政府の政策は偏狭な民族主義的な傾向を見せているが、そのことと国境管理・難民問題を一緒くたにすることはできない。政府が民族主義政府だからという理由で、ハンガリーの主権行使が一方的に非難されるのは公平性を欠く。21世紀の難民問題はイデオロギーを超えた当事国の国家主権、社会的アイデンティティの問題を孕んでおり、たんなる人道支援で対処できる域を遙かに超えている。

「社会変革（社会の崩壊- 再生）の過程で死滅するのは社会を構成する人間そのものではなく、時代の社会関係とそこにおける社会的役割（機能）である」と主張している。人々は社会的関係を変え、自らの役割を変えながら、変動する社会を生き抜いていく。ここに生物学的死とは異なる人間社会の死がある。

「社会的死の特質から、旧社会の規範や倫理が新社会でもかなり長期にわたって生き続ける」という重要な命題が導かれる。同じ人々が新しい社会を構成している限り、旧体制の権力エリートであれ反体制のエリートであれ、古い社会規範や倫理を持ち続ける。だから、古い規範や倫理は新しい社会においても長期に渡って生き続ける。政治体制が変わった程度では既存の社会的規範や倫理が大きく変わることはない。

権力維持が
自己目的化

社会主義社会には市民社会の社会的規範や倫理は存在しなかった。体制転換によって、一夜にして、新しい社会的規範や倫理が生まれるわけではない。「旧体制の権力エリートは社会的倫理意識が低く、反体制エリートのそれは高い」ことはない。旧社会でも新社会でも同じ人間が生き続けるのだから、反体制エリートだけが特別に高い倫理性を保持していることはない。実際のところ、旧社会で育まれた規範や倫理を超える規範・倫理の創出が、体制転換の現実的課題になることはなかった。旧社会で育まれることがなかった高度な市民社会の規範や倫理の形成は、市場経済発展をベースとした市民社会の形成に依存している。市民社会の成熟度が高まらない限り、新しい社会的規範や倫理が創出され定着することはない。

新たに権力を獲得した者は、権力維持のためにあらゆる手段を使って延命のための方策を探る。中欧では「バラマキ」政策やメディア掌握、司法への介入が一般的になった。それらは社会主義時代の社会的慣性である。

問題意識

第8章

体制転換の歴史学

ライク逮捕
の内幕

1. 東欧社会主義とは何だったのか
2. ライク外相処刑事件の真相
3. ハンガリー動乱へのプロセスとソ連介入の内幕
4. カールダール体制の評価

ソ連介入の
舞台裏

カールダール
の功罪

戦後東欧に樹立された
「社会主義とはいった
いどのような社会だっ
たのか

「人民民主主義革命から社
会主義革命」という2段階革
命論は、ソ連型社会主義導
入のソ連共産党のイデオロ
ギーだった。

東欧共産党政治家の粛清事件

1. ライク外相粛清はその後の各国共産党幹部粛清のモデルとなった。
2. Noel H. Field拉致は東欧粛清事件の大きな契機となった。
3. スターリンの死後、粛清からの名誉回復が反体制運動を活性化しそれがハンガリー動乱を帰結した。

カードールの功罪

1. カードールのソ連への連行
2. 一時的カードとしてのカードール
3. ナジ・イムレ処刑とカードール体制の確立

ソ連介入の舞台裏

1. どのようにハンガリー侵攻決定が行われたのか。
2. 第一次介入後ソ連共産党内の議論はどのように行われたのか。
3. 第二次介入の決定はどのように行われたのか。

20世紀
社会主義

20世紀社会主義と 体制転換を総括する

第9章

人類史
への教訓

1. 20世紀社会主義とは何だったのか
2. 体制転換を理解する10の命題
3. 人類史への教訓

体制転換
10の命題

20世紀社会主義は 戦時社会主義

1. 労働者階級独裁(一党支配体制)
2. 個人崇拜的専制政治
3. 政治・保安警察の存在
4. 戦時的配給制度
5. 自由な経済活動の禁止

特徴(続き)

戦時社会主義の特徴続き)

6. 体制批判者の排除
7. 鎖国政策
8. イデオロギーによる国家統一

体制転換を理解する10の命題



命題1. 「経済的な本質から見ると、ソ連・東欧諸国の体制転換は、国家・党資産の再分配過程である」

命題2. 「国家・党資産の再分配は、資産略奪に伴う腐敗を必然化させる」

命題3. 「国民経済の市場経済化は、国营企業のほとんどが倒産するという無からの出発になった」

命題4. 「体制転換諸国の再工業化は外資による直接投資に依存せざるを得なかった」

命題5. 「外資の流入によって、国民経済は借り物経済 (borrowed economy) へ転化する」

命題6- 10

命題6. 「借り物経済下の労働者は、国内にいながらゲストワーカーと化す」

命題7. 「借り物経済では、労働倫理や社会的規範が劣化する」

命題8. 「市場経済の低迷が、未熟な福祉国家を生んでいる」

命題9. 「国民経済の国庫経済化が、市場経済にもとづく経済発展を阻害する」

命題10. 「ハンガリー（体制転換）経済は国庫経済に罫に陥り、そこから脱却が難しい」（国庫経済の罫）

20世紀社会主義から得られる教訓



教訓1

1. 20世紀社会主義は啓蒙君主制を引き継いだ「善意の専制支配」であり、「賢人支配」であった。この支配体制は支配者と被支配者との格差（あらゆる意味における）を前提とするものである。

王制であれ、世俗の王制であれ、専制支配は支配者と民との格差を前提とする封建的支配体制である。与える者と受け取る者が明確に区別された社会であり、give but obeyの原則が貫徹する社会である。

教訓2- 5

2. いかなる「善意の専制」であれ、専制政治は個人独裁や個人崇拝を誘発する。

世俗の専制は支配を確実にするために、「世俗の王」を必要とする。

専制者が「世俗の王」になることによって、支配の永続性が保障される。

3. 啓蒙君主制の否定の上に樹立された20世紀社会主義は、支配を安定させるために、労働者階級の党による独裁を必然化させ、一党独裁はやがて「世俗の王」として共産党書記長を神格化させることになった。20世紀社会主義は啓蒙君主制の母斑を孕む歴史的存在を抜け出すことはなかった。

逆に、アジア的な社会主義は、欧州の社会主義が崩壊した後、家族的な専制や個人崇拜国家へと後退し、社会主義イデオロギーとは無縁の封建的君主制に近い存在へと先祖返りすることになった。

4. 現在の人類社会は、依然として、封建的君主制から共和制への、長い歴史的過渡期にある。この過渡期の中で、欧州とアジアの歴史的発展過程の違いが明確になっているだけでなく、それぞれの地域内部においても、歴史過渡期の地域的差異が明確になっている。

それはまた、たんに国や地域間の違いのみならず、一つの国家内部、一つの社会内部における違いとしても発現している。

5. 人類社会は支配- 従属関係を伴う give but obeyが支配する時代から、社会構成員の平等性を伴う give and takeが支配する時代への長期の過渡期にいる。

相互の利益を尊重し、相互の存在を認め合う社会が実現するためには、「交換関係にもとづく社会行動」が貫徹しなければならない。社会行動（日常生活、経済活動、政治活動、芸術活動）における互惠尊重の実現が、人類生き残りのための唯一の道である。